

2025年度（総合型選抜）A0選抜入学試験

経済学部「情報・数学重視方式」

1. 実施状況

(1) 志願者数、合格者数等

学科・学域・専攻等	志願者数	1次合格者数	最終合格者数
経済学科・経済専攻	36	21	12

(2) 本入学試験の目的

昨今データ分析の必要性が社会において高くなってきた。加えて、2022年度よりスタートした高校の学習指導要領が変更され、「情報I」が必修化され、単純に知識を覚えるといった学習から、資料を元に情報を適切かつ効率よくまとめることを目指す探求型の学習への移行することとなった。これらの情勢の変化を踏まえ、本学部のアドミッションポリシーに適した人材の入学を図るという目的で開発されたのが、ここに述べるA0入試(情報・数学重視方式)である。

本入試の特徴は、AIを用いたatama+を使用し、出願資格において、経済学部で定めたデータ分析のために必要な数学能力（アドミッションポリシー（1）経済・社会の問題を分析するために必要な基礎学力に包含している。）を確認する点にある。

2. 試験内容

(1) 第1次選考

提出された「志望理由書①」、「同②」及び「出願者申告書」を書類審査する。それらの具体的な内容は以下の通り。

志望理由書①：あなたが経済学部経済学科経済専攻で入学後に学びたいテーマと、この入試を目指すに至った動機を含め、志望理由を 800 字程度で記載。

志望理由書②：経済に関連する事柄について、関心のあるものをテーマとして 1 つ選び、以下を合計 1,200 字程度で記載。

ア 上記のテーマを選んだ理由を示したうえで、その内容に関してデータをふまえながら具体的に説明（図表添付などあり）。

イ その事柄に関するあなたの考えを論理的に説明。

出願者申告書：数学やデータ分析に関して興味や関心を持った背景を記載。また、これまでの学習について強調したい具体的な取り組みなどがあれば記載。

(2) 第2次選考

プレゼンテーションと個人面接を行う。具体的な内容は以下の通り。

プレゼンテーション：志望理由書の②で記した事柄について、作成したスライドをもとに、プレゼンテーションを 5 分程度行う。

個人面接：以下の内容について個人面接を 15 分程度行う。

- ・プレゼンテーションの内容に関する質疑
- ・出願書類（「志望理由書」・「出願者申告書」等）をもとに、志望動機、これまでの学習の取り組み、入学後に学びたいテーマ、経済学分野に関する興味・関心等について質疑。

3. 出題の意図

(1) 第1次選考

志望理由書①：経済学部経済学科経済専攻への志望動機の強さについて、データ分析に関連した形で何を本学経済学部で学習したいのかについて、経済社会への興味・関心の程度について、ある字数内で的確に伝えられる文章力と論理力を確認することを意図している。

志望理由書②：経済社会への興味・関心の確認とエビデンスに基づいた形で、論理的な文章作成能力を確認することを意図している。

出願者申告書：数学やデータ分析に興味を有したきっかけやどの程度興味があるのかなどについて確認することを意図している。

(2) 第2次選考

プレゼンテーション：志望理由書②に記載された自分なりの分析内容を限られた時間内で、エビデンスに基づいて論理的に自分の言葉で分かりやすく伝える力、コミュニケーション能力を確認することを意図している。

個人面接：プレゼンテーションの内容について、どれだけ深く考察してきたかということと、内容の関連分野にまで目配りをしているのかということなどを確認することを意図している。加えて、志望理由書①や出願者申告書での記載内容の再確認と、それらに記載された内容上の不明点を確認することを意図している。

4. 評価のポイント

(1) 第1次選考

志望理由書①：経済に対する関心を持っていることが明確に示されているか、本学の経済学部を志望している理由が明確に示されているか、入学後の具体的な学習プランを持っているか。

志望理由書②：選んだテーマ（＝「問い」）と、問いへの「答え」が明確に示されているか、選んだテーマが意義深いもの、またはおもしろいものであることが説得的に示されているか、選んだテーマについて論じたいことに対して適切なデータを選択しているか、データから導かれる結論に論理的飛躍はないか、全体として論理的な文章を構成できているか。

出願者申告書：数学やデータ分析に興味を持つようになったきっかけと、数学やデータ分析についての自身の学習をわかりやすく説明できているか。

(2) 第2次選考

プレゼンテーション：問いと答えが明確に示されているか、データを適切に用いて、問いから答えに至る論理をわかりやすく説明できているかどうか、制限時間を守って発表できているか。

個人面接：面接官の質問に対して、的確にかつ簡潔に答えようとしているか。覚えてきたことを再生するのではなく、面接官との会話ができているか。

5. 解答状況

(1) 第1次選考

志望理由書①：志願者のほとんどは、本学の経済学部を志望している理由をわかりやすく説明できていた。一方、入学後の学習プランについては、具体性に乏しいものがいくつか見られた。

志望理由書②：問いを立てる参考として、入学試験要項に参考資料等を提示したが、これらを使用した形跡がうかがえる志願者はいなかった。志願者は全員オリジナルな問いを立て分析していた。しかし、選んだ問いに対する理解が不足しているように見えるもの、問いについての説明や問いへの答えの導出において適切とは言えないデータが提示されているもの、データをほとんど用いずに牽強附会な結論を導出しているものもいくつか見られた。

出願者申告書：高校の正課での活動に限らず、中学時代の経験や課外での活動でのエピソードなどを交えてわかりやすく記載していた志願者がいた反面、興味をもったきっかけや取り組み内容などの記述が具体的ではない志願者も散見された。

(2) 第2次選考

プレゼンテーション：出願者の多くが制限時間内(5分以内)でプレゼンテーションをすることができていた。一部、示された結論がデータからは読み取れないような、「結論ありき」のプレゼンテーションも散見された。また、発表テーマについては、発表者自身も実はたいして興味を持っていないのだが、いかにも経済っぽいテーマなので選んでみました、というふうに見えるものがいくつかあった。「人」にかかわることであればなんでも経済学の対象となるので、本当に自分自身が興味を持ち、データ分析を通して答えを出したいと思う問いをテーマに選んでほしい。

個人面接：プレゼンテーションで適切なデータが用いられていたものについては、おおむね、発表内容に関する質問に対して的確に答えることができていた。しかし、一部のプレゼンテーションでは、適切なデータが用いられていないせいで、面接官の質問に適切に答えることができていない場合もあった。一方、数学やデータ分析に興味を持つようになったきっかけや、入学後の学習プランについては、面接での質疑応答を通して理解が進んだ場合があった。

6. 次年度の受験生へのアドバイス

出願資格：単元の学習については、毎日コツコツと学習することが肝要です。修得認定試験も一発合格する人はまれですので、くじけずに取り組んでください。

第1次選考

志望理由書①：単に経済問題や経済学に興味があるというだけでなく、なぜ立命館大学経済学部を選択したのか？ということが分かるように、HPなどで本学部の特徴を踏まえて記載してください。どのようなことを学習したいのかについても、できるだけ具体的に記載することを心がけてください。

志望理由書②：何に注目してどのような問いを立てたのか？その問を分析するのに、適切なデータは何か？分析結果を論理的に説明した文章になっているか？などを考えて、文章を作成してください。

出願者申告書：自分が趣味でプログラミングをしているとか、高校の正課での取り組みに限らず、データ分析や数学に関心のあることを記載してもらえればOKです。

第2次選考

プレゼンテーション：5分間の中で、志望理由書②に記載した内容のうち、何を話して、何をあえて話さないかとよく考えて、プレゼンテーションを構築してください。志望理由書には盛り込めなかったことでも、プレゼンテーションの質が向上するのであれば、必要と思えば付加してください。（現に、そのようなことを行った受験生はおられました。）

個人面接：プレゼンテーションの内容に関することについては、受験者本人が理解して発表しているかどうかを確かめます。無理に背伸びせずに、自分の言葉で説明できる内容に取り組んでください。加えて、志望理由書①や出願者申告書についての質問についても、等身大の自分を面接官に理解してもらえるような回答を心がけてください。

以上